

## 平成20年9月（第4回）議会一般質問事項

### 1 いせさきFMについて

- (1) 活用方法
- (2) 今後の対応

### 2 税収対策について

- (1) 取り組み
- (2) 滞納整理課の成果及び実績
- (3) ふるさと寄附金

### 3 男女共同参画社会について

- (1) 取り組み
- (2) 審議会等・管理職員の各割合
- (3) 男女共同参画都市宣言

### 4 ごみ減量対策について

- (1) 取り組み
- (2) 生ごみ処理器等の助成制度

伊勢崎クラブを代表いたしまして、通告に従い、順次質問をいたします。

まず初めに、いせさきFMについてお尋ねいたします。

いよいよ本市においても県内6局目となるコミュニティ放送局いせさきFMが、民間の手により建設中の市役所東館1階コミュニティーホールで11月に開局

とうかがっております。

コミュニティエフエム放送局は、平成4年に国で制度化され、全国では現在221局が運営されているとうかがっております。

コミュニティ放送は、地元の身近な話題やニュースを発信し、地域振興を図るとともに、防災情報や災害情報等、地域のさまざまな問題についても、リアルタイムできめ細かく提供するという役割も担っているとうかがっております。そこで、番組編成、市からの情報伝達、災害対応等、伊勢崎市独自の市民に対してのメッセージを発信し、どう活用していくのか、市長、教育長にお尋ねいたしたいと思います。

また、小・中学校の現場や社会教育における活用をどのように考えているのかも、あわせてお尋ねいたします。

今後の対応といたしまして、いせさきFMに対する関与はどのようになっているのか。

また、より多くのリスナーを獲得するための手立て、あるいは費用対効果をどう考えるかなど、いせさきFMについて、市長、教育長にお尋ねしたいと思います。

2点目、税収対策についてお尋ねいたします。

昨今の厳しい財政状況や地方分権の高まりの中で、国の三位一体改革に伴う税源移譲等を通じて、自主財源である地方税の重要性は、ますます高まってきております。

それに伴う収納率向上対策は、極めて重要かつ大きな課題であると思われま。全国的に人口減少が進んでいる中で、本市はまだ活力ある元気な市であり、発展が期待できるなどと安心できない今日であると思われま。

本市においても、部課長合同徴収、ネット公売、合同公売等あらゆる手段を用いて収納率アップに努力していると思われまが、その取り組みについて、まずお尋ねいたします。

次に、本年4月より滞納整理課が設置され、国民の義務である納税を遵守すべく、日夜奮闘していることに対し、幾ら仕事とはいえ、感謝申し上げたいと思われま。

税金は取られるものでなく、納めるもののはずであります。

社会環境の多様化や納税に対する意識の変化が要因し、滞納が年々膨れ上がっている今日、滞納整理課の成果及び実績についてお尋ねしたいと思われま。

ふるさと寄附金についてお尋ねいたします。

本年4月、地方税法等の改正により、自分が生まれ育ったふるさとに貢献したい、あるいは自分とかわりの深い地域を応援したいという思いを形にするた

めに、税の一部をふるさとに寄附し、一定の税控除が受けられる制度が始まりました。

全国各地でこの制度を利用し、厳しい財政状況を克服し、地域おこしを模索しているのがおわかりになると思います。

しかしながら、寄附を強要したり、見返りや恩典により寄附を求めるべきでないことは当然であります。

そこで、本市においてもふるさと寄附条例等を設置し、受入体制を整えることが必要と思われるが、本市の取り組み状況についてお尋ねいたします。

3点目、男女共同参画社会についてお尋ねいたします。

本市においては、男女共同参画社会実現に向け、平成19年度から平成26年度までの8カ年を市の総合計画の中の個別計画として、この計画を策定したとかがっております。

しかしながら、依然として性別による固定的役割分担意識が、今なお社会の慣行として根強く残っており、共同参画社会の形成を阻害していると思われる。近年、女性の社会参加、自立志向が強まって、各産業界においても女性の職場進出が目立っております。

古来からの、女性は家庭を守るものだというイメージが一変し、それぞれその能力に応じて活躍されているのだと思われる。

管理職登用となると、まだ狭き門であります。女性職員の中には、その能力や勤務態度から、その地位を与えてもよいと思われる方が大勢見受けられると思えます。

女性管理職は、市民からも信頼を受け、市役所内にフレッシュな感じを与え、繊細な神経を使って課をまとめ、職責を果たすものと考えられます。

そこで、本市の取り組みはどうか、学校現場もあわせお尋ねいたします。

審議会等における男女比率、市職員の管理職登用の各割合、また小・中学校等における教職員の割合等についても、あわせてお尋ねいたします。

男女共同参画都市宣言については、市はどのように考えているのかお尋ねいたします。

4点目、ごみ減量対策についてお尋ねします。

家庭から出る可燃ごみの約50%近くを占めるのが生ごみだと聞いております。大量消費の中で、そのごみを減らすべく、本市においても環境指導員等により、生ごみ処理器の導入と普及が図られたと聞いております。

そこで、その成果と本市におけるごみの減量対策の取り組みをお尋ねしたいと思えます。

また、生ごみ処理器等の助成制度の内容及び実績等についてお尋ねいたします。  
以上で質問を終わりますが、答弁によっては再質問を留保いたします。